

温泉の保護と利用に関する課題について (中間報告の骨子)

はじめに

- ・ 昨年 8 月以降の検討に基づき、温泉をめぐる主な問題点と課題等について、中間的に意見を取りまとめたもの。
- ・ 温泉法等の検討を要する課題については、今後専門的な調査検討を行う。
- ・ 温泉関係事業者や国民への呼びかけも盛り込み、参考に供する。

1. 温泉の保護と利用をめぐる状況、主な問題点

(1) 温泉と温泉利用をめぐる状況

温泉（源泉、ゆう出量など）の動向

- ・ 全国の源泉数は増加したが、自噴泉は減少し、動力泉が増加。
- ・ 温泉ゆう出量は、動力揚湯に支えられ増加してきたが、最近では頭打ち。

温泉利用（利用施設、利用者数など）の動向

- ・ 全国の温泉宿泊施設数は横ばい、収容定員は拡大したが、宿泊利用者は頭打ち。
- ・ 日帰り温泉施設の充実等で、日帰り利用者は増加。

温泉利用者・国民の視点から見て

- ・ 国内観光は、慰安目的の団体旅行から多様な観光目的の家族・友人旅行に変化、近年では「温泉旅行」が増加。
- ・ 国民の温泉志向は、日帰り温泉利用に反映される一方、温泉らしい温泉（温泉そのもの・温泉情緒・自然環境）への要望も強い。
- ・ レジオネラ症問題等で、衛生管理への不安、循環利用への不信。

温泉地・温泉事業者の視点から見て

- ・ 深刻化する温泉資源の制約、枯渇問題の不安。
- ・ 団体旅行対応等のため、温泉施設を大規模化した但し宿泊客は増加せず、循環る過方式を導入したが衛生問題等で不評。
- ・ 大規模化を目指して利用率低下の温泉地がある一方、個性ある温泉地に人気が集まるなど、温泉地の明暗が拡大。

(2) 主な問題点と課題

- 1) 温泉ブームと温泉開発の進展により、温泉資源の制約が顕在化
温泉を持続的に利用できるように、温泉源の保護を進めること
- 2) 温泉利用の増加、循環利用等に伴い、温泉の質や衛生面での国民の不安、不信
安全に安心して利用できるよう、温泉利用の適正管理と情報提供を進めること

- 3)国民の温泉利用の多様化等により、温泉地の明暗拡大
温泉地の創意工夫を促し、魅力ある温泉利用の場づくりを進めること

2. 主要な課題に関する対応の方向について

(1) 温泉源の保護 ~ 温泉を持続的に利用するために

温泉は地球の恵み、限りある資源。国民の保健休養、地域おこし・観光資源といった多様な公益的利用を持続的に可能とする温泉資源の保護管理が必要。

温泉法による温泉源保護のための各種許可制度等について、その運用実態、効果、改善を要する点等を調査検討することが必要。

当面、行政による源泉状況把握と未利用泉への指導、掘削源泉での過剰揚湯回避の配慮が望まれる。

(2) 温泉利用の適正管理と情報提供 ~ 温泉を安全に安心して利用するために

温泉事業者の取組が基本的に重要であり、温泉利用施設の特性を踏まえた衛生管理の励行、温泉利用者（消費者）への正確な情報提供の普及等が望まれる。

温泉利用者たる国民にも、温泉資源保護への理解（循環ろ過と源泉かけ流しのバランスある評価）、温泉入浴マナー向上の協力を求めたい。

温泉法に関しても、温泉情報提供に有効な成分揭示の適正化を含め、温泉利用に関する揭示項目や利用基準の見直し検討が必要。

(3) 温泉地の創意による取組の促進 ~ 魅力ある温泉利用の場づくりのために

国民ニーズの多様化等に対応し、個性的で魅力ある温泉地の形成が重要。

温泉保護と泉質保持など魅力的な温泉地づくりのため、市町村の役割を重視し、自然環境行政の支援強化を。

国民保養温泉地は、健全な温泉利用のモデルとして、各温泉地の主体的な取組を促すものとなるように、今後のあり方の検討が必要。